



Change and Innovation 3.0

For a Sustainable Future

ESG説明会

2020年10月15日

 住友化学

本日のアジェンダ

I

住友化学のサステナビリティへの取り組み

代表取締役社長 岩田 圭一

03

II

環境トピックス

取締役副社長執行役員 上田 博

E

26

III

社会・ガバナンストピックス

取締役専務執行役員 新沼 宏

S

G

46

I

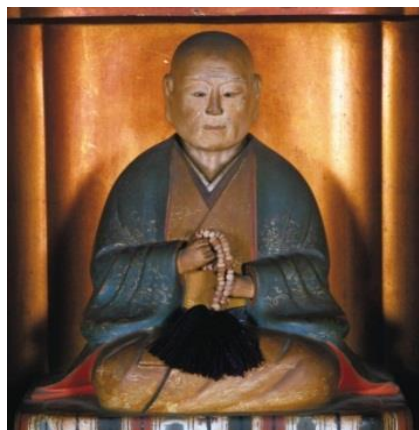
住友化学のサステナビリティへの取り組み

- | | | |
|---|-----------------------|----|
| 1 | 住友の事業精神、歴史 | 04 |
| 2 | サステナビリティの潮流 | 09 |
| 3 | サステナビリティ・マネジメント、トピックス | 13 |
| 4 | 外部評価、まとめ | 22 |

1

住友の事業精神、歴史

住友の事業精神

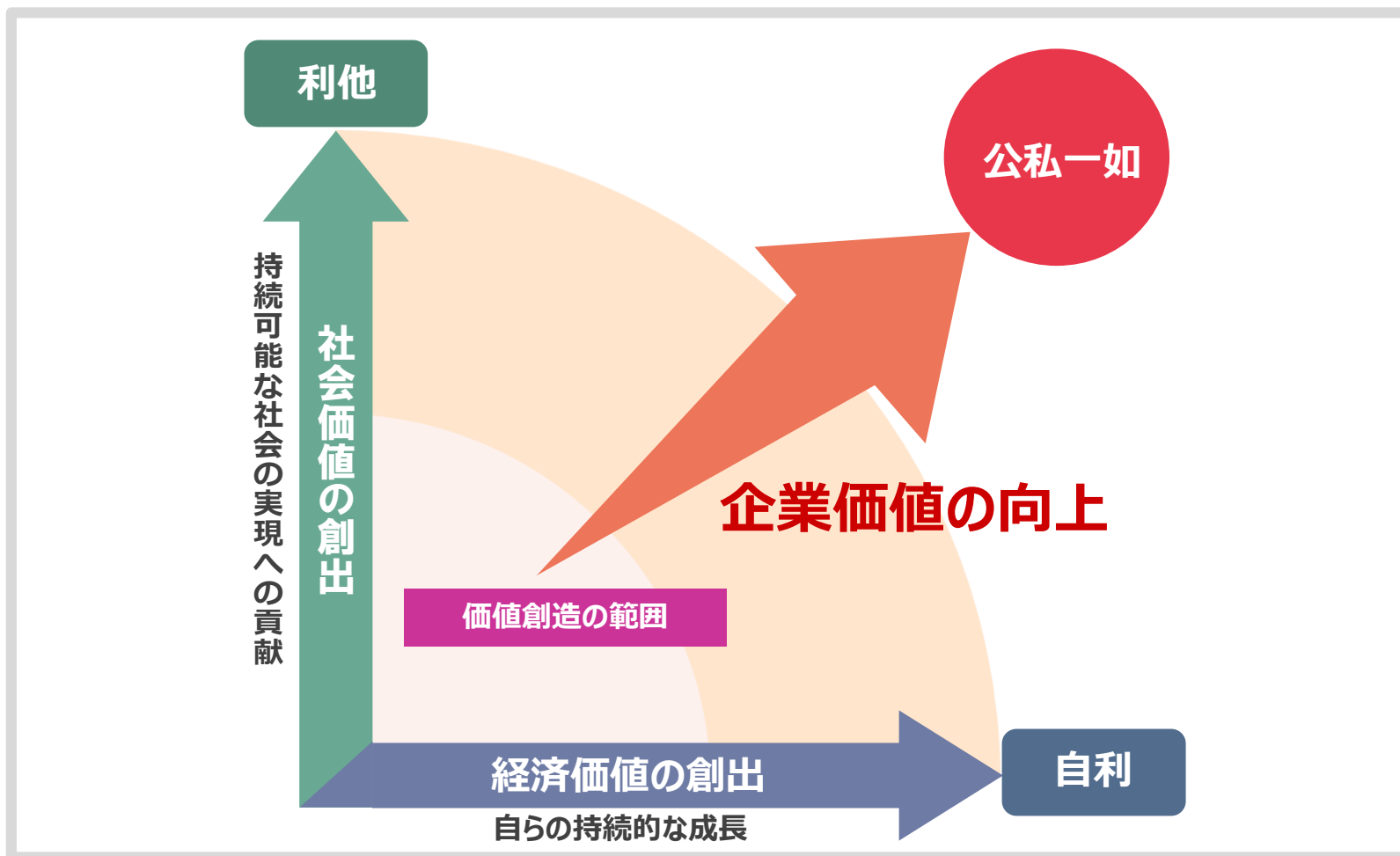


住友政友像

じりりた こうしいちによ
自利利他 公私一如

事業は自ら利益を得るものであるとともに、
社会に対しても利益あるものでなければならない。

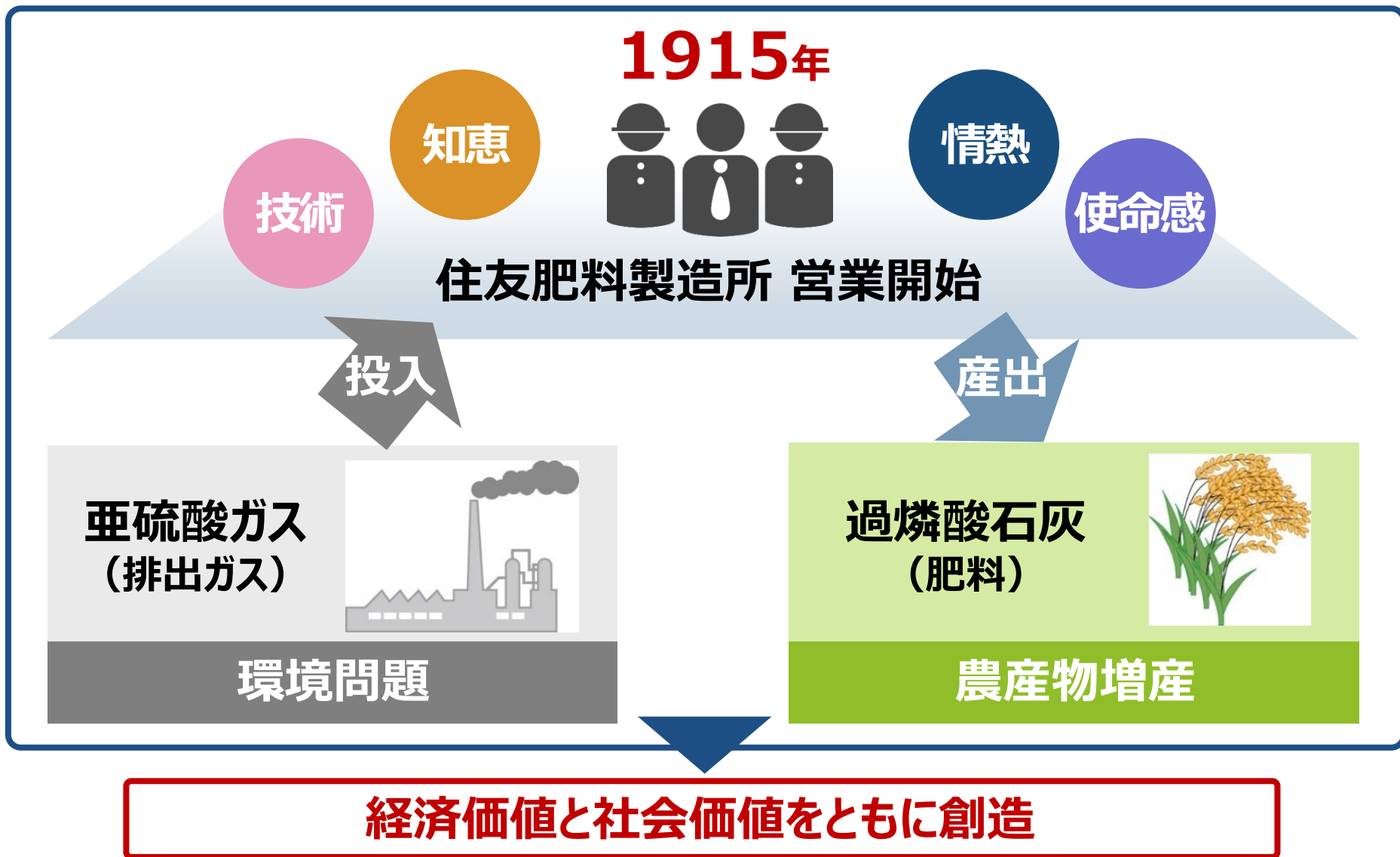
当社の目指す姿



目指す姿

経済価値・社会価値を一体的に創出し、
住友化学グループの持続的な成長とサステナブルな社会を実現

統合的解決の例：創業の歴史



統合的解決の例：オリセットネット

感染症対策

マラリアによる死者数が2000年から半減。

13 気候変動に
具体的な対策を



3 すべての人に
健康と福祉を



雇用・ジェンダー平等

現地生産により7,000人の雇用を創出。女性の就業環境整備。



8 働きがいも
経済成長も



5 ジェンダー平等を
実現しよう



教育支援

収益の一部で教育支援。アフリカ12カ国において28のプロジェクト、総受益者数21,000人超。

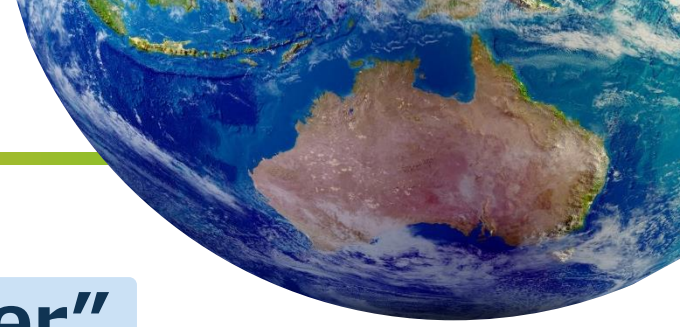
4 質の高い教育を
みんなに



2

サステナビリティの潮流

サステナビリティの潮流



コロナ禍からの“Build Back Better”

■ 国連事務総長の呼びかけ

各国が協調し、
このパンデミックの危機を
BBBの機会とすべき

6つの気候関連の提案
復興資金はグリーン経済への転換を促す
ものに向けるべき

■ EU復興プラン

EUグリーンディール

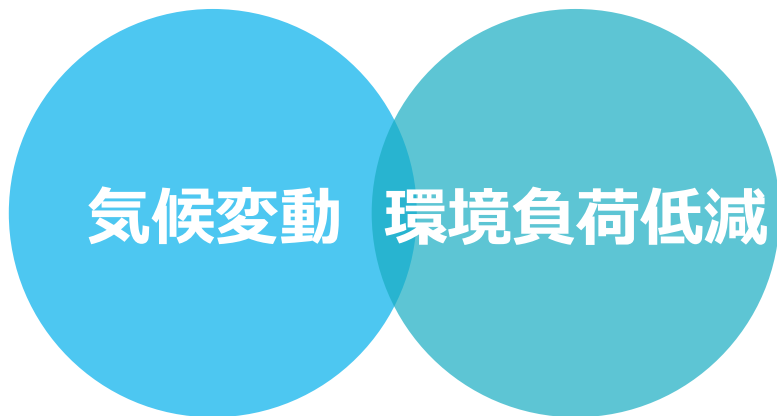
サーキュラーエコノミー行動計画

この闘いの背後には
気候変動・環境問題の脅威が迫る

経済、COVID-19、気候変動・環境問題を一体として捉える必要性

化学産業が担う役割

サステナビリティへの貢献



安心・安全な生活の維持
に対する意識・関心の高まり

企業による貢献に期待

社会基盤を支える



新型コロナウイルス
感染拡大防止にも貢献

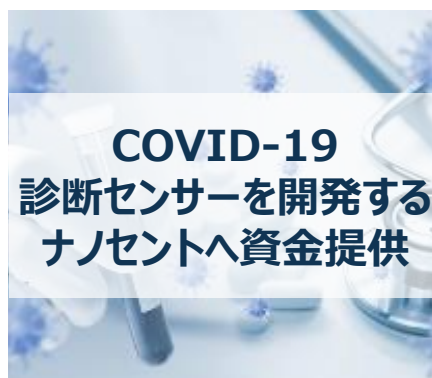
新たな需要や製品を
素材面で支える

化学産業

コロナ禍における当社事業の貢献



**化学の総合力で
感染症の沈静化に貢献**



3

サステナビリティ・マネジメント、トピックス

サステナビリティ推進の考え方

「T・S・P」の原則で取り組みを推進

トップコミットメント

サステナビリティ推進
基本原則

経営としてサステナビリティの推進に
取り組む姿勢

ソリューション

Sumika
Sustainable
Solutions



事業を通じた
社会課題解決への貢献



参加

グローバル
プロジェクト



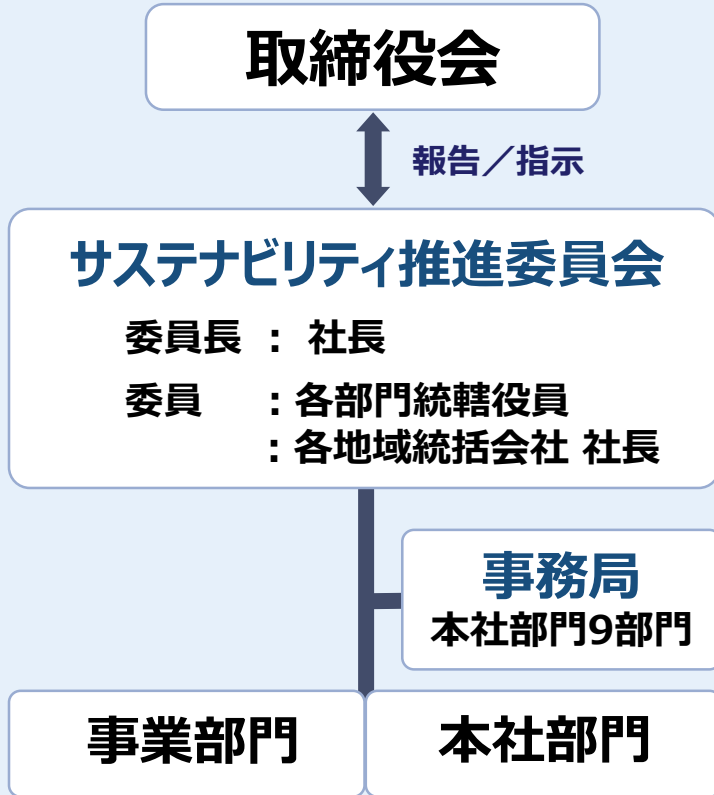
SUMITOMO CHEMICAL GROUP

GLOBAL
PROJECT

グループ一体となった
サステナビリティ推進

サステナビリティ推進委員会の設置

サステナビリティ推進委員会体制



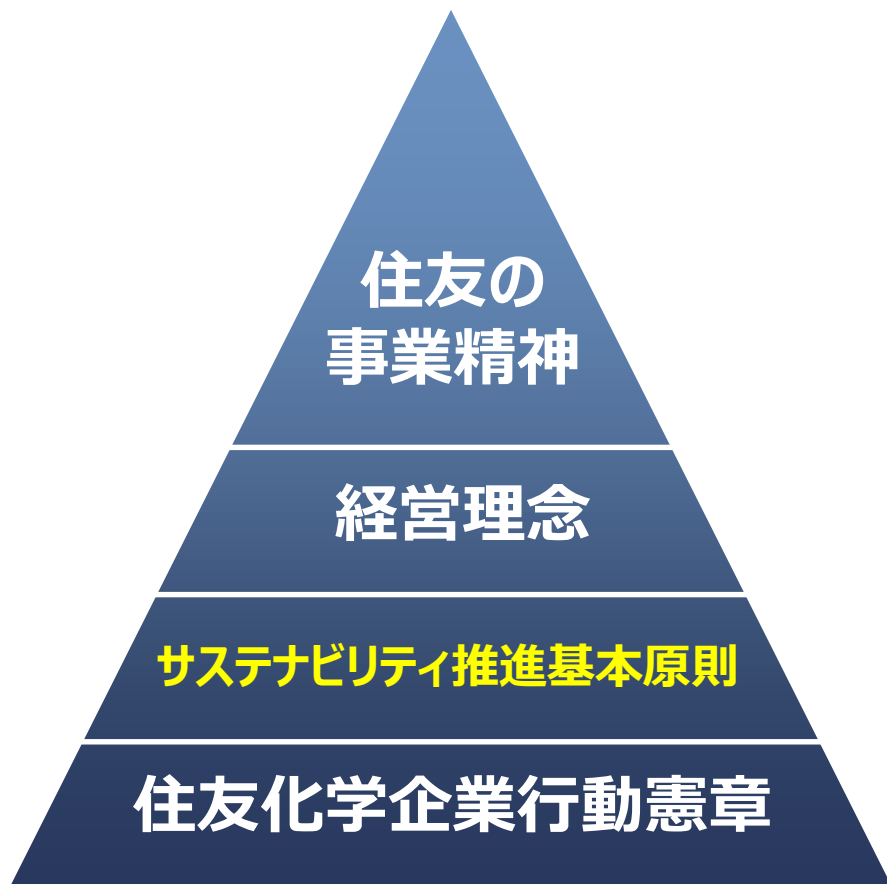
目的

- 1 サステナビリティ推進活動を **総合的に** 把握
- 2 サステナビリティへの貢献を **俯瞰的に** 検証
- 3 SDGsなど社会課題解決へ **統合的な** 取り組みを加速

総合的に捉え、統合的に取り組む

サステナビリティ推進基本原則

住友化学の企業理念体系



サステナビリティ推進基本原則

- 原則 1 経済価値と社会価値の創出
(「**自利利他** **公私一如**」の推進)
- 原則 2 国際社会の
重要課題解決への貢献
- 原則 3 関係機関との連携
- 原則 4 ステークホルダーとの協働
- 原則 5 トップコミットメントと
全員の参画
- 原則 6 ガバナンス

経営として取り組む重要課題

持続的な価値創出のための重要課題「マテリアリティ」

社会価値創出に関する マテリアリティ

環境負荷低減への貢献

- 気候変動の緩和
- 製品・技術を通じた貢献
- エネルギー・資源の効率的利用
- プラスチック資源循環への貢献

食糧問題への貢献

ヘルスケア分野への貢献

ICTの技術革新への貢献

将来の価値創造に向けた マテリアリティ

技術・研究開発の推進

デジタル革新への取り組み

ダイバーシティ& インクルージョンの推進

事業継続のための基盤

- | | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 労働安全衛生・保安防災 | <input type="checkbox"/> 製品安全・品質保証 | <input type="checkbox"/> 人権尊重 |
| <input type="checkbox"/> 従業員の健康 | <input type="checkbox"/> コンプライアンス | <input type="checkbox"/> 腐敗防止 |

KPI一覽

マテリアリティ		KPI 項目	SDGs Target
社会価値創出に関するマテリアリティ			
環境負荷低減	気候変動の緩和	グループのGHG排出量 (Scope 1 + 2)	13.3
		製品ライフサイクルを通じたGHG排出削減貢献量 (電池関連)	13.3
	製品・技術を通じた貢献	Sumika Sustainable Solutions認定製品の売上収益	-
	エネルギー・資源の効率的利用	エネルギー消費原単位指数	7.3
		石油化学関連ライセンス数	9.4
	プラスチック資源循環への貢献	各種取り組みを実施中、KPI設定は今後検討	-
食糧問題		鶏などの動物たんぱく質の増産効果	2.1
		アグロソリューション資材が使用された農地面積	2.4
ヘルスケア分野		熱帯感染症対策資材により守られた人数	3.3
		アンメット・メディカル・ニーズの高い領域での継続的な医薬品の創出	-
ICTの技術革新		偏光フィルムを使用したモバイル端末数	8.2
将来の価値創造に向けたマテリアリティ			
技術・研究開発の推進		特許資産規模	
デジタル革新への取り組み		デジタル成熟度	
ダイバーシティ&インクルージョンの推進		グループ各社において、それぞれの環境に応じたKPIを設定	

KPI事例と進捗（食糧問題への貢献）

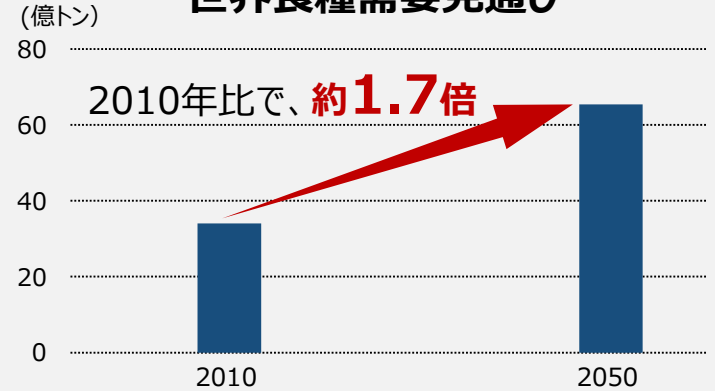
- 世界人口の爆発的な増加
- 新興国の経済成長による食文化の成熟化



2050年には世界人口は約97億人[※]となり、食糧も約1.7倍の需要となる見通し。

※World Population Estimate the 2019 revised

世界食糧需要見通し



※「2050年における世界の食料需給見通し」農林水産省（令和元年2月）

KPI

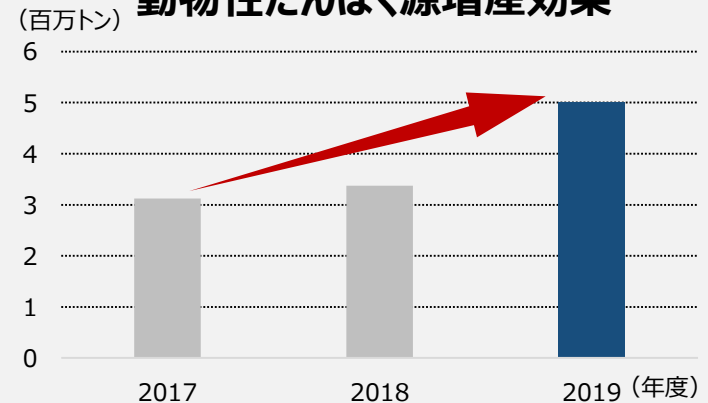
鶏などの動物性たんぱく源の増産効果

メチオニンの販売により貢献

- 年率6%の成長が期待
- 鶏肉を中心とした動物性たんぱく源を増産
- GHG排出削減にも貢献



動物性たんぱく源増産効果

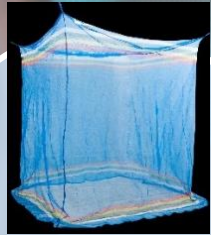


世界の食糧問題に継続的に貢献

ヘルスケア分野への貢献（感染症領域）



ベクターコントロール※を通じた感染症対策



長期残効性蚊帳



室内残効型散布剤



幼虫対策剤



空間散布剤

※生物媒介性疾病（Vector Born Disease）を媒介する生物（主に昆虫）を駆除、制御することにより、ヒトへの感染を防ぐこと



薬剤耐性菌※治療薬の開発

緊急度の高いカルバペネム系抗菌薬の耐性菌等に対する治療薬を、北里研究所と共同研究



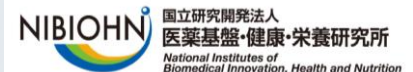
学校法人

北里研究所
THE KITASATO INSTITUTE

※既存の抗生物質に耐性をもつ細菌

万能型インフルエンザワクチンの開発

- 1種類であらゆる型のインフルエンザウイルスに対応
- 大日本住友製薬のワクチンアジュバント技術（免疫補助剤）を活用



ヘルスケア分野への貢献（再生・細胞医薬品のCDMO事業）

再生・細胞医薬品のCDMO事業 （製法開発・製造受託）

- 医薬品CDMO需要は、今後の**大きな成長分野**
- 再生・細胞医薬品では、国内でCDMOを担える**高度な技術を持つ事業者は限定的**
- **住友化学と大日本住友製薬の強みを発揮**



- ES/iPS細胞に係る基盤技術
- 医薬原薬製造受託（CMO）事業の知見






- 再生・細胞医薬に関する業界トップレベルの知見
- iPS細胞製品の開発品

再生・細胞医薬事業でのグループシナジーの活用により、ヘルスケア分野に貢献

4

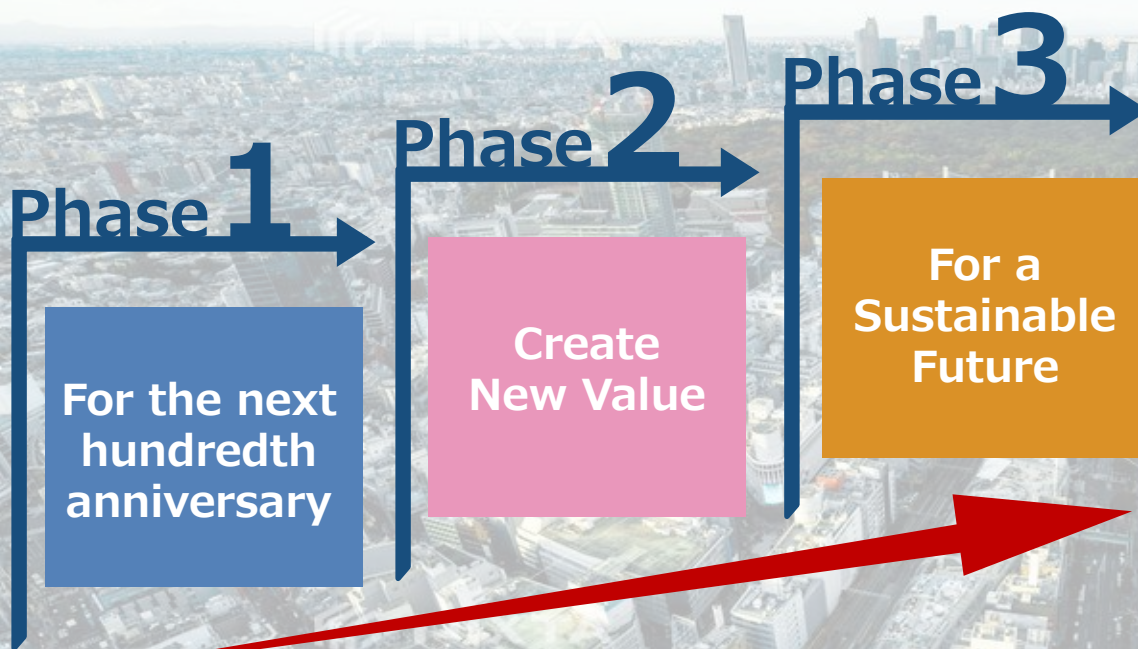
外部評価、まとめ

外部評価

	2017年	2018年	2019年	2020年 (現時点)	備考
 カーボン・ ディスクロージャー・ プロジェクト	B	A	A	2021年 1月予定	最高評価 = A
 FTSE Blossom Japan Index	2.8	4.0	4.2	2020年 12月予定	5点満点
MSCI MSCI ジャパン ESGセレクト・リーダーズ 指数	AAA	AAA	AAA	AAA	最高評価 = AAA
MSCI MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)	5.8	6.2	6.0	6.7	10点満点
 Ecovadis Sustainability Ratings	Silver	Bronze	Silver	Gold	Goldは上位5%

今後の長期的な経営戦略について

Change & Innovation



近年の潮流の変化

サステナビリティ意識の高まり
DX進化のうねり

次期中期経営計画は、
近年のトレンドを踏まえた
将来のあるべき姿に
基づき作成

3年×3回の9年計画は、次の段階へ

ステークホルダーとの夢の共有

住友化学は「経済価値」「社会価値」を一体的に創出



環境負荷低減



食糧問題



ヘルスケア分野



ICTの技術革新



事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献

-ステークホルダーの皆様とこの夢を共有-

II

環境トピックス

E

- | | | |
|---|-------------------------|----|
| 1 | 国際化、ボーダーレス化するサステナビリティ対応 | 27 |
| 2 | 気候変動問題への対応 | 29 |
| 3 | プラスチック廃棄物問題への対応 | 40 |

1

**国際化、ボーダーレス化する
サステナビリティ対応**

国際化、ボーダーレス化するサステナビリティ対応



2

気候変動問題への対応

気候変動対応への姿勢

基本姿勢

住友化学は、気候変動対応を経営として取り組む重要課題の一つと位置づけ、「**機会の獲得**」と「**リスクへの対応**」の両面から取り組みを進めています。

ガバナンス

重要事項は、経営会議や全社委員会にて審議、施策を決定

リスク管理

全社委員会にて評価およびモニタリングを実施

戦略

気候変動対応の専任組織を置き、**シナリオ分析**を実施しながら、事業の「**機会**」と「**リスク**」について把握、分析

指標と目標

機会の獲得

- SSS**※1認定製品の開発普及に注力
- SSSの売上収益**や**ライフサイクルを通じたGHGの削減貢献量**をKPIに設定

リスクへの対応

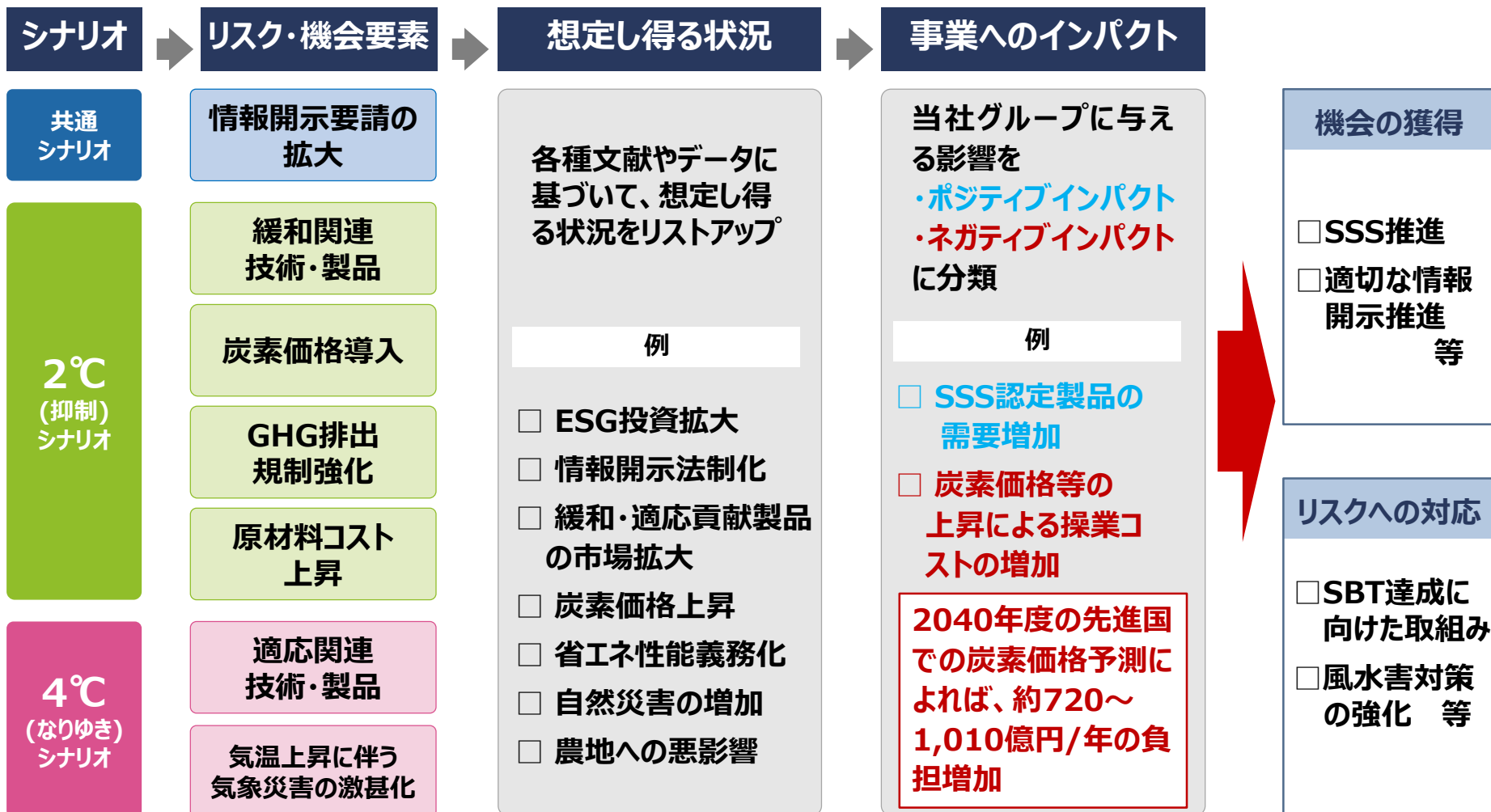
- SBT**※2達成に向けた施策を実施
- グループのGHG排出量**や**エネルギー消費原単位指数**をKPIに設定

※1 SSS: Sumika Sustainable Solutions

※2 SBT: Science Based Targets

シナリオ分析

複数のシナリオを設定し、想定し得る状況と当社事業へのインパクトを分析した結果に基づいて
機会とリスクの両面から当社としてのアクションプランを策定



※詳細は「住友化学レポート2020」P68-69をご参照ください

地球環境問題への取り組み

機会の獲得

(事業を通じた貢献)

環境配慮型製品の販売

Sumika Sustainable Solutions
対象製品売上高の拡大

製品ライフサイクル全体での
排出量削減

リスクへの対応

SBT 認定取得



2018年10月
総合化学企業で
初認定

燃料転換

技術開発

環境配慮型製品による貢献 + 自社排出量削減

Sumika Sustainable Solutions

KPI: Sumika Sustainable Solutions※ (SSS) 認定製品の売上収益

SSS認定製品の開発・普及を促進することで、持続可能な社会を構築するためのソリューションを提供

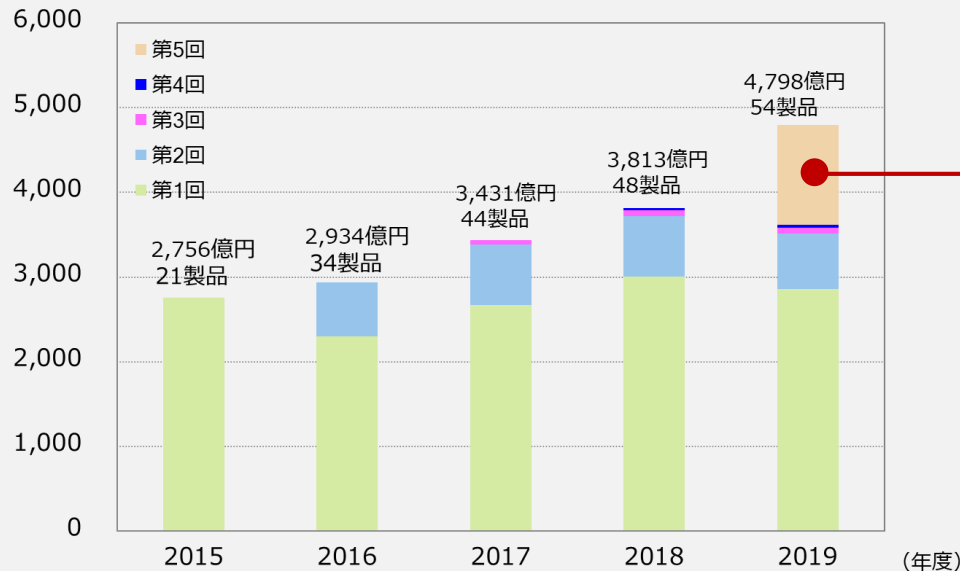


Sumika
Sustainable
Solutions

目標

2021年度までに **5,600**億円

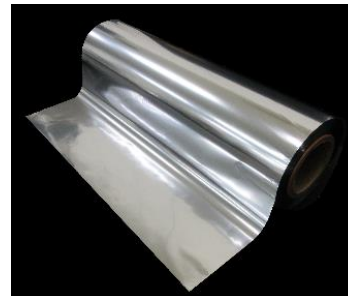
※温暖化対策や環境負荷低減などに貢献する当社グループの製品・技術を認定し、その開発や普及を促進する取り組み



第5回SSS認定 (2020.8.3 リリース)

新たに6製品を認定

アルミ蒸着フィルム用ポリプロピレン材料、
転写工程を利用したフレキシブルタッチセンサー、
ミストエース (灌水チューブ) 他



Sumika Sustainable Solutions



- 住友化学のSSSは、**着実に成果を積み上げており、海外先進企業 Unilever やJohnson & Johnson などにチャレンジできるレベルになることは確実**
- SDGsとの関係について、**国連合意文書（英語版）に沿った形での公表**（5Ps = People, Planet, Prosperity, Peace, Partnershipの視点）を検討してはどうか
- **今後の取り組みに期待したい**

東京大学 名誉教授 **安井 至** 氏

気候変動対応

温室効果ガス排出削減への貢献

6,200万トン/年
の排出削減に貢献！

気候変動対応

気候変動による影響への適応貢献

9製品・技術
が貢献！

環境負荷低減

廃棄物、有害物質の削減や
環境負荷低減への貢献

10万トン/年
の有機溶媒の使用量削減に貢献！

資源有効利用

リサイクル・省資源化の実現への貢献

3.4万トン/年
の樹脂フィルム使用量削減に貢献！

資源有効利用

水資源の効率的な利用に資するもの

1,420万トン/年
の水使用量削減に貢献！

住友化学グループのSBT

当社温室効果ガス削減目標がSBTイニシアティブの認定を取得

Scope 1 + 2 ※1

Scope 3 ※2

2030年度までに

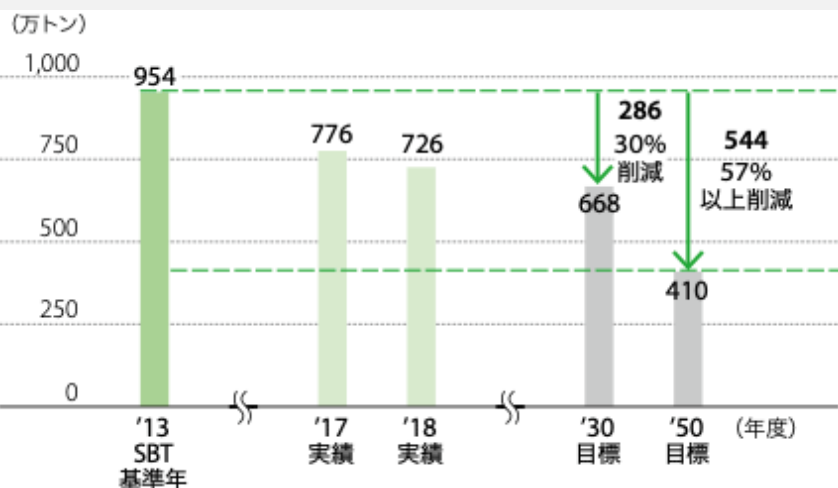
2050年度までに

2024年度までに

30%削減※3

57%以上削減※4

主要サプライヤーの
GHG削減目標設定※5



- ※1 Scope1: 製造プロセスにおける燃料使用など、工場からの直接排出
Scope2: 工場外からの電力・熱の購入などによる間接的な排出
- ※2 Scope3: 購入する原料の製造段階、輸送段階などでの排出
- ※3 2013年度比30%削減
- ※4 2013年度比57%以上削減
Scope 1・2のGHG排出量削減とともに、バリューチェーンにおけるGHG排出量大幅削減のためのソリューションも提供する
- ※5 購入原料などの重量ベースで90%を占めるサプライヤーが科学に基づくGHG削減目標を設定するよう、エンゲージメントを実施する

SBT 進捗実例

燃料転換による温室効果ガス（CO₂）排出削減例

高効率ガスタービン発電機の導入

既存ボイラー等の一部廃止

燃料転換 石炭/石油コークス/重油からLNGに変更 **CO₂排出削減**

熱効率UP ガスタービンの高温排気ガスを使用したスチーム供給

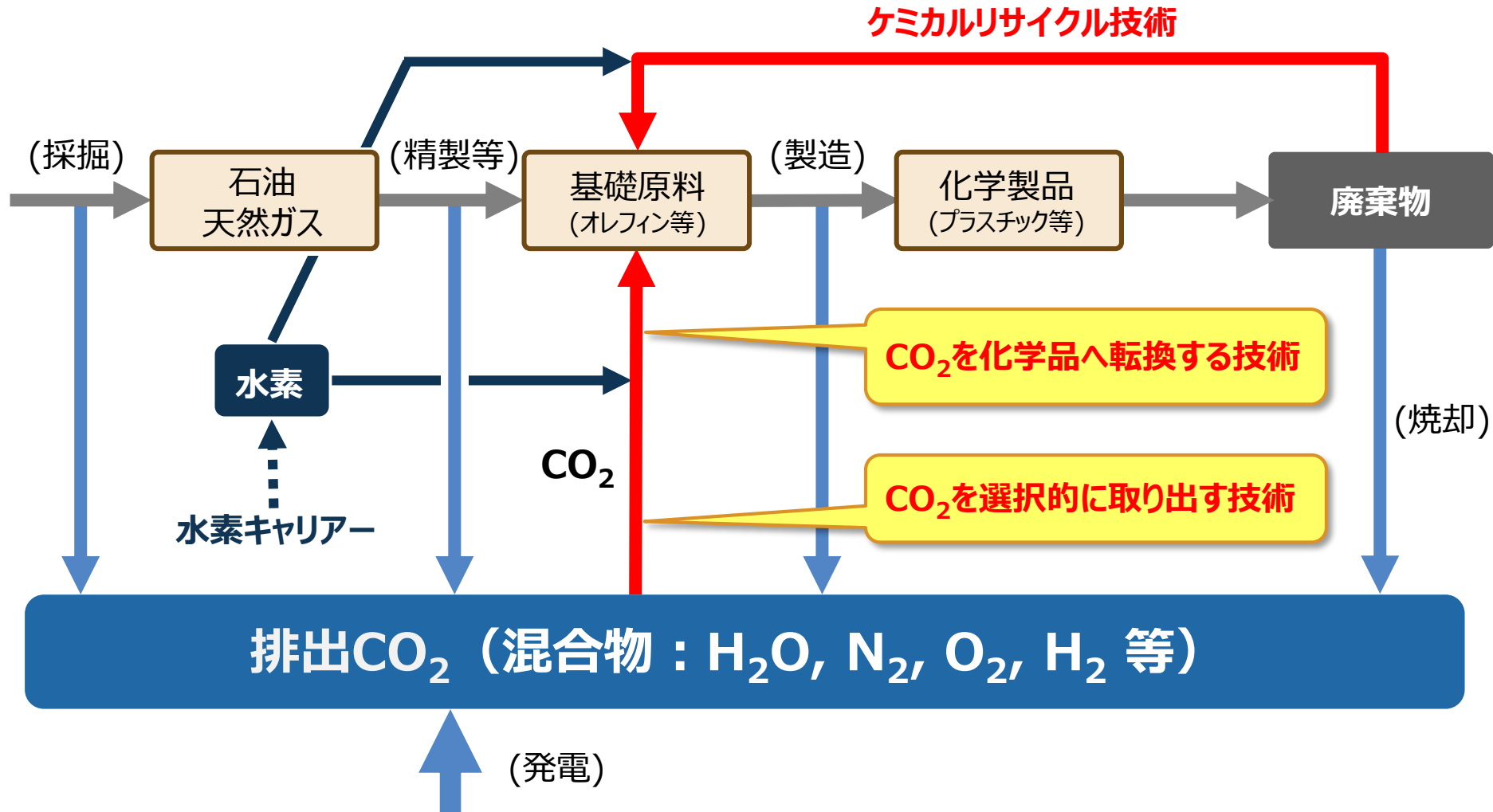
	愛媛地区	千葉地区
燃料	石炭・重油 ▶ LNG	石油コークス ▶ LNG
CO ₂ 削減量	65万トン/年	24万トン/年



愛媛工場敷地内に、国内最大級のLNGタンクを建設中

炭素循環促進に向けた取り組み

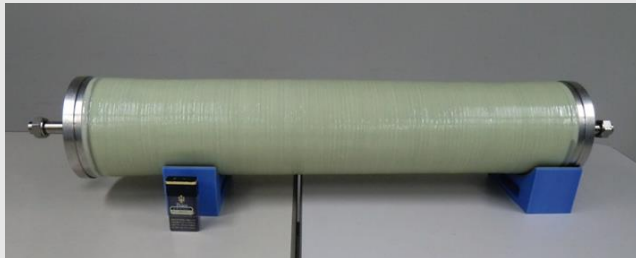
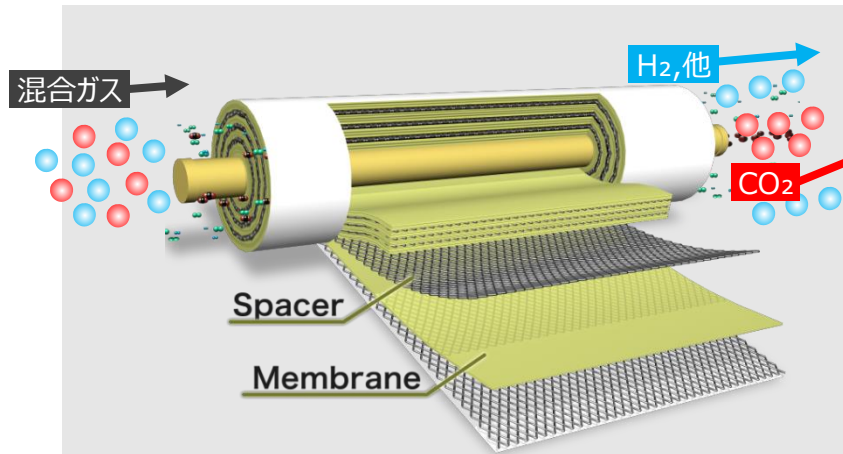
* **Key Technology**の開発により、炭素循環の実現を加速



炭素循環に関わる開発事例

CO₂を選択的に取出す技術

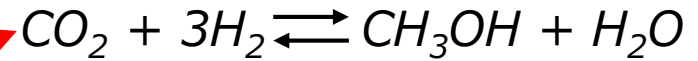
機能膜による低エネルギー・高効率な
CO₂の分離



- モジュール化技術確立済み
- 膜組成の最適化検討継続

CO₂を化学品へ転換する技術

新規・触媒/プロセスによる高効率な
メタノールの製造技術



既存プロセスの課題

- 平衡反応制約によりメタノール収率
10~20%
- 未反応CO₂は大循環 (E多消費型)

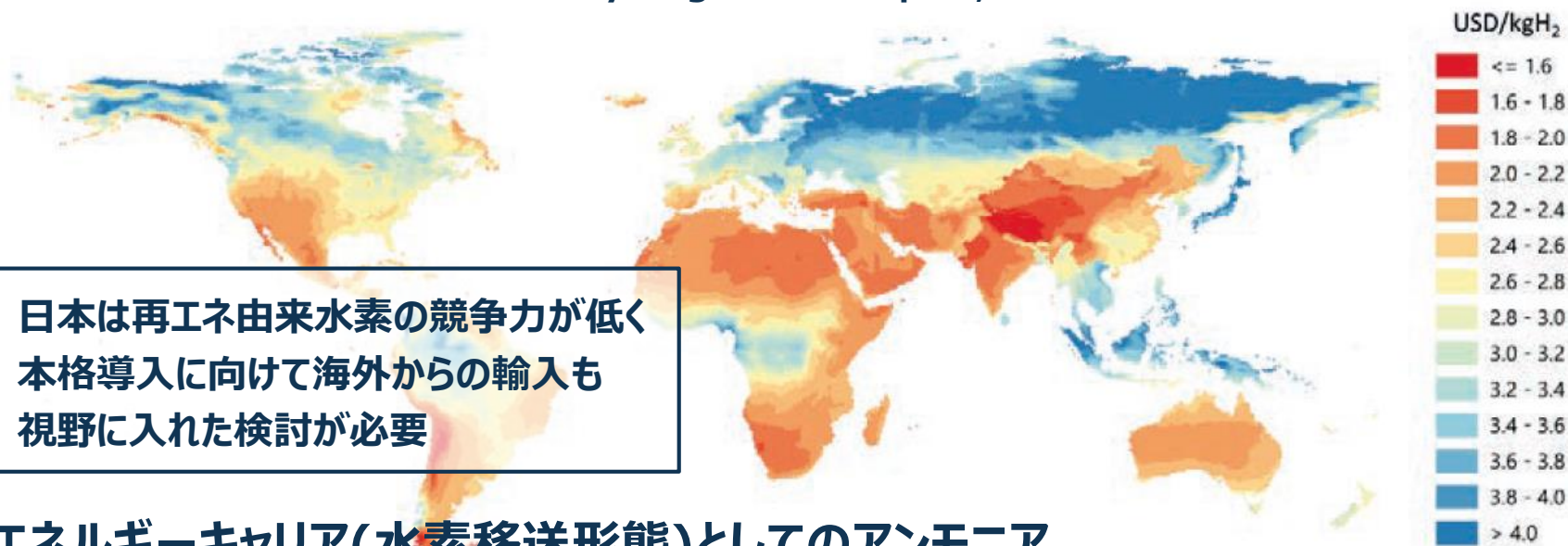
開発中のプロセス

- メタノール収率 60~90%
- 低E消費かつコンパクトなプロセス
- 島根大学との共同開発
- 年内にベンチ評価設備稼働

水素問題に関するアプローチ

再生可能エネルギーを用いた水電解による水素製造コスト

“The Future of Hydrogen” IEA report, 2019.06.14



日本は再生可能エネルギー由来水素の競争力が低く、本格導入に向けて海外からの輸入も視野に入れた検討が必要

エネルギーキャリア(水素移送形態)としてのアンモニア

移送形態	温度	水素密度	課題
液化水素	-253℃以下	71 kg/m ³	多くの課題 大規模輸送・貯蔵技術はR&D段階
アンモニア	-33℃以下	120 kg/m ³	アンモニア製造時の発生CO ₂ とコストの抑制

触媒・プロセス設計技術を生かした抜本的製法転換の可能性を探求

3

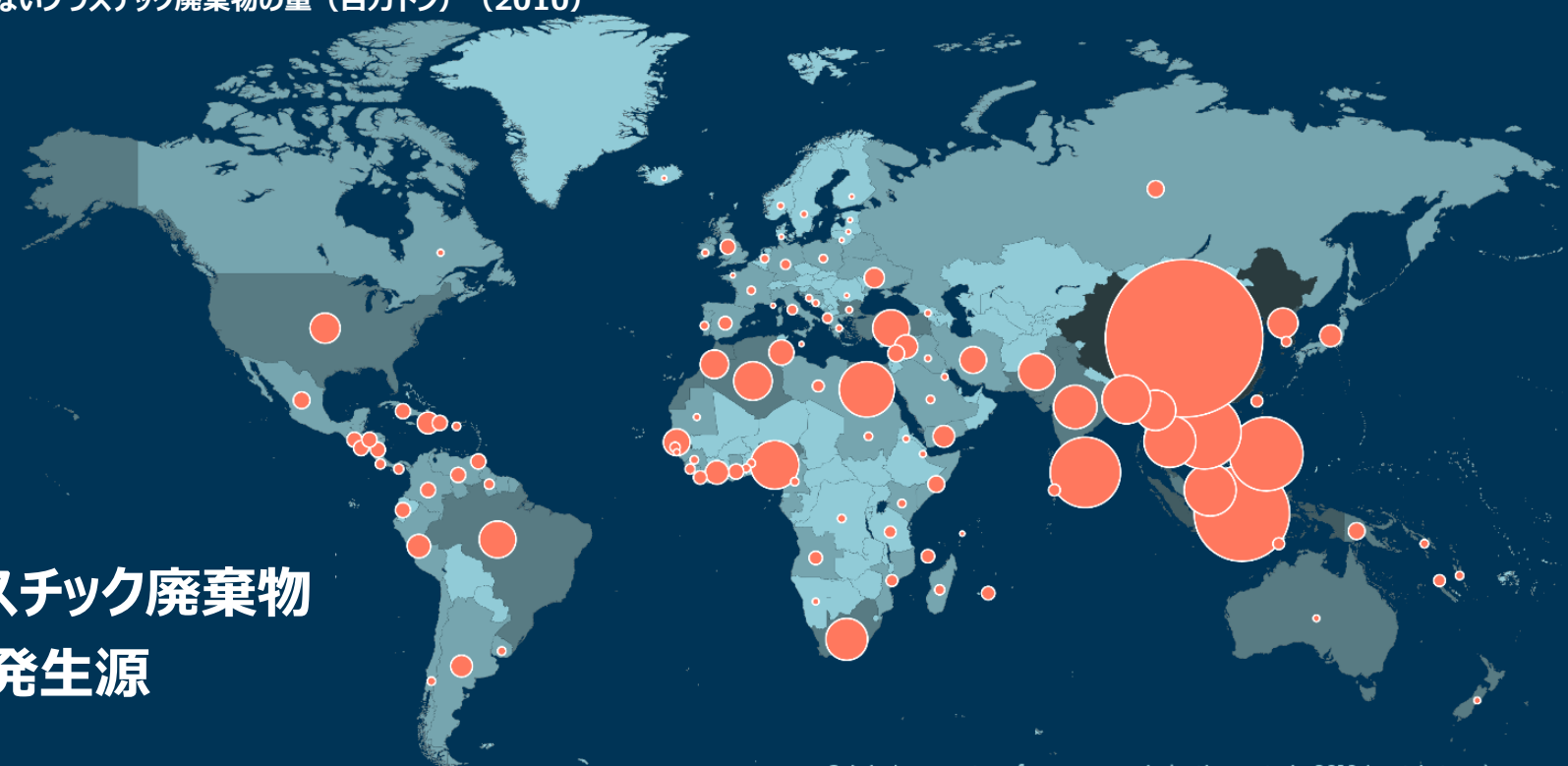
プラスチック廃棄物問題への対応

プラスチック廃棄物問題概要

適切に管理されていないプラスチック廃棄物の量（百万トン）（2010）

- 中国 8.8
- インドネシア 3.2
- フィリピン 1.9
- ベトナム 1.8
- スリランカ 1.6

海洋プラスチック廃棄物の発生源



Origin by country of unmanaged plastic waste in 2010 (metric tons)

Sources: Science; University of Georgia; University of California; Sea Education Association

適切に管理されていないプラスチック廃棄物の多くが世界の海に流れ込んで環境を汚染している

これまでに海洋に排出されたプラスチック廃棄物： **150 百万トン** ※1
毎年海洋に流れ込むプラスチック廃棄物： **+ 8 百万トン** ※2

※1 McKinsey & Company and Ocean Conservancy (2015)

※2 Neufeld, L., et al. (2016)

プラスチック資源循環に関する基本方針（概要）

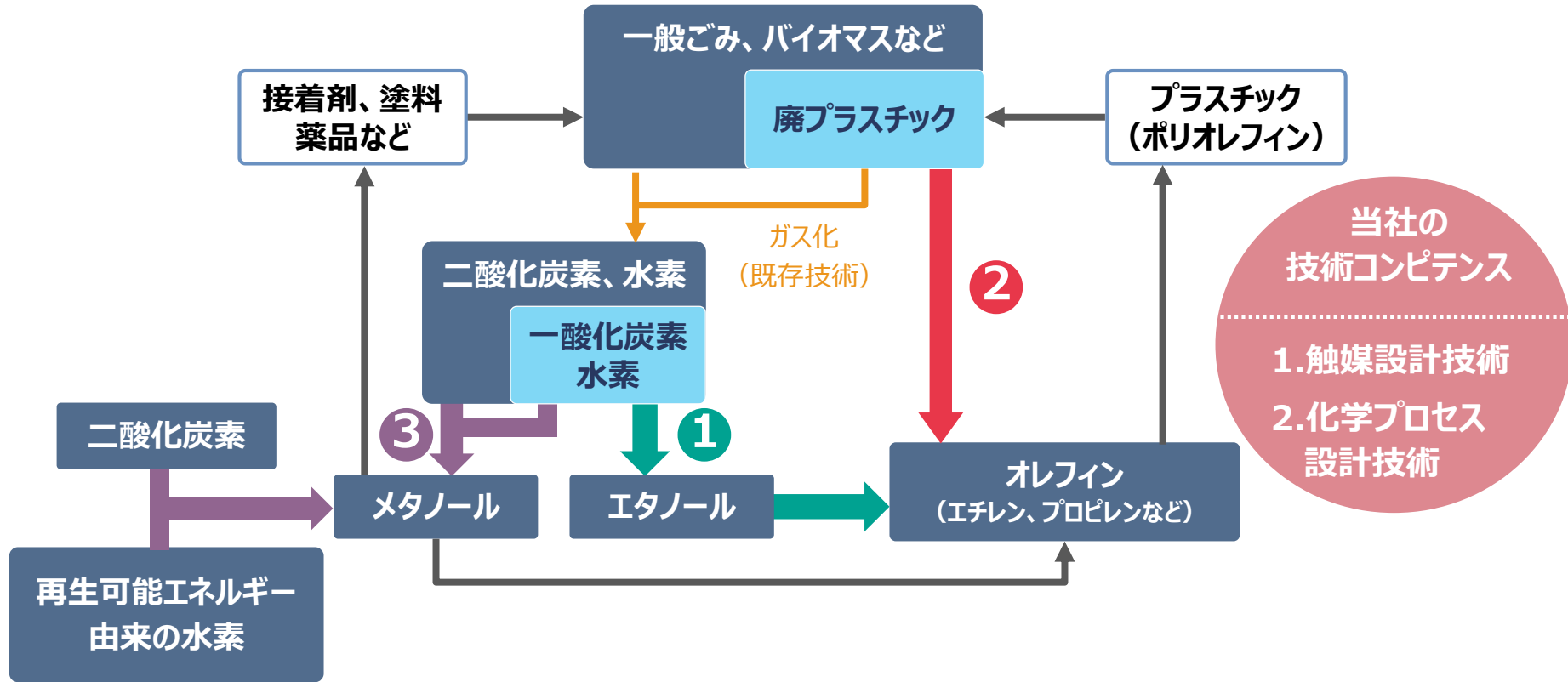
- プラスチックは持続可能な社会を支える有用な素材であると認識
- プラスチック資源循環の実現とプラスチック廃棄物問題の解決に向けて取り組む

1. 化学の強みを発揮し、**事業を通じて課題解決に貢献する**
2. 気候変動問題への対応にも配慮しつつ
リデュース・リユース・リサイクル（3R）に関するイノベーションを中心に注力し、新しいソリューションの早期社会実装を目指す
3. 個社では解決が難しい課題に対しても、**他者との連携**等を通じて取り組む
4. 健全な科学に基づく教育啓発や、社会貢献活動にも積極的に取り組む
5. 活動についてレビューを行い、内容の充実と質の向上を図る

3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取り組み

	製品事例	特長／実績			
リデュース	<p>詰替え用パウチ</p> <p>ボトルよりも軽量・高強度</p> <p>▶輸送効率が高い</p> 		ボトル	大型詰替え用パウチ	
		環境適性	包装重量(g)/ 内容量100g	19	1.8
			輸送効率	○	
		利用価値	落袋強度	○	
リユース	<p>通い箱</p> <p>ポリプロピレン（PP）発泡シート製で 繰り返し使用可能</p> <p>▶環境適性に加え、耐水性、 耐荷重性、クリーン性も高い</p> 		紙段ボール	通い箱 PP発泡シート	
		環境適性	1個当たり使用回数	1	50
			包材使用量（kg/年）	24.9（50枚分）	1.4
				リユース性	×
		利用価値	耐水性・耐荷重性・ クリーン性	×	
リサイクル	<p>ガラス繊維強化再生PP材料</p> <p>重量比60%超の 再生PP含有でありながら バージンPPを代替できる性能</p> <p>▶サーキュラーエコノミー政策適合技術として ユーザーから高評価</p> 	<p>環境貢献実績（2018年度）</p> <p>バージンポリプロピレンの 使用削減量 4,700トン/年</p> <p>.....</p> <p>バージンポリプロピレンを 使用した場合と比較した GHG排出削減量 12,300トン/年 (CO₂換算)</p>			

ケミカルリサイクル



化石資源に代わり、廃プラやごみからプラスチックを製造

① 積水化学工業との連携

【原料】 一般ごみ、廃プラ、バイオマス
【製品】 ポリエチレン

② 室蘭工業大学と共同研究

【原料】 廃プラ
【製品】 エチレン、プロピレンなど

③ 島根大学と共同研究

【原料】 一般ごみ、廃プラ、バイオマス
【製品】 メタノール

取り組みの充実に向けて

取り組み内容

- 3R関連製品の提供
- ケミカルリサイクル関連技術開発
- マテリアルリサイクル関連技術開発
- イニシアティブへの参画

さらなる充実に向けて

社内取り組みの充実

新規取り組み発掘

- 課題志向の探索
- 社内外連携推進
- アイデア整理 ▶ 具体化

プラスチック
資源循環
WG結成

社内啓発

- イン트라ネットを通じた関連情報の社内発信
- グループ全体での課題と対応の共有

社外イニシアティブを通じた取り組みの充実

イニシアティブ	目的	進捗・実績
AEPW	インフラ整備、技術革新、教育、回収清掃を通じた取り組み	プラスチック廃棄物高排出地域における回収促進やインフラ整備
CLOMA	プラスチック製品の持続可能な使用や代替素材の開発導入を推進	ニーズとシーズのマッチング 発展途上国などへの技術コンサルティング
JaIME	海洋プラスチック問題に関する社会啓発・情報共有・情報発信など	教育用DVDの制作

AEPW: Alliance to End Plastic Waste CLOMA: Clean Ocean Material Alliance (クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス)
JaIME: Japan Initiative of Marine Environment (海洋プラスチック問題対応協議会)

III

社会・ガバナンストピックス



1	サステナビリティ・マネジメント	47
2	ガバナンストピックス	50
3	社会トピックス	59

1

サステナビリティ・マネジメント

サステナビリティ推進の考え方

「T・S・P」の原則で取り組みを推進

トップコミットメント

サステナビリティ推進
基本原則

経営としてサステナビリティの推進に
取り組む姿勢

ソリューション

Sumika
Sustainable
Solutions



事業を通じた
社会課題解決への貢献



参加

グローバル
プロジェクト



SUMITOMO CHEMICAL GROUP

GLOBAL
PROJECT

グループ一体となった
サステナビリティ推進

グローバルプロジェクト～全役職員の参加型プロジェクト



2014年

2015年

2016～2018年

2019～2021年

グループ一体で取り組む

SDGsの理解 事業を通して

サステナビリティ推進の加速



School Aid for Africa



100年の感謝



サステナブルツリー



For a Sustainable Future
-JIRI RITA-

- 目的：サステナビリティについて学び、アクションにつなげる
- 参加方法：専用ウェブサイト

クイズ（学ぶ）

用語集（調べる）

投稿（アクション）

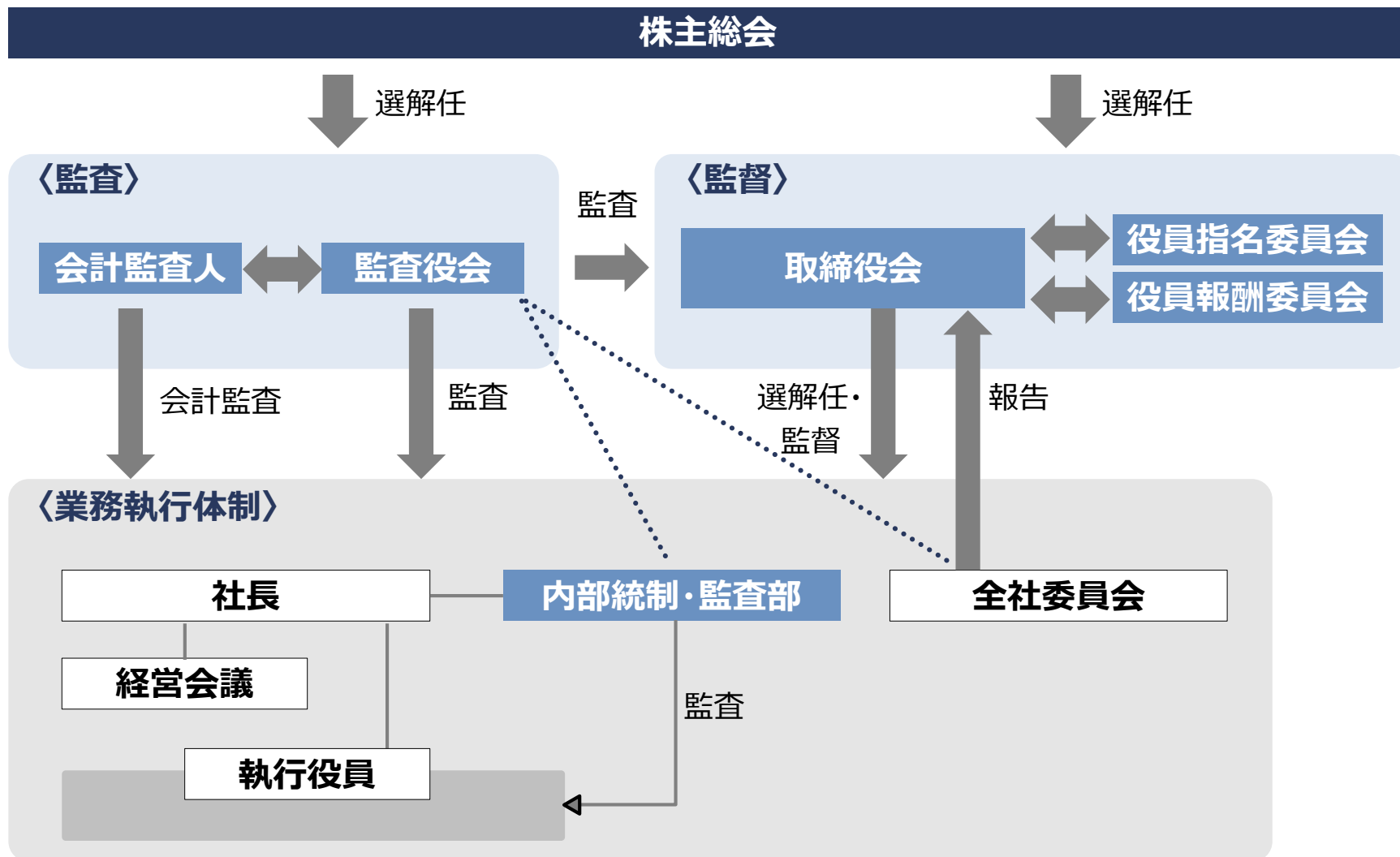
2019年度実績	住友化学	国内グループ	海外グループ	計
クイズ参加人数(人)	4,993	8,529	9,274	22,796
投稿件数(件)	2,266	3,290	6,511	12,067

2

ガバナンスピックアップ

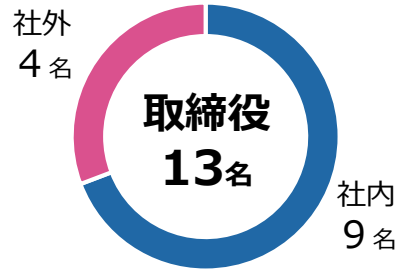


当社のコーポレートガバナンスの体制

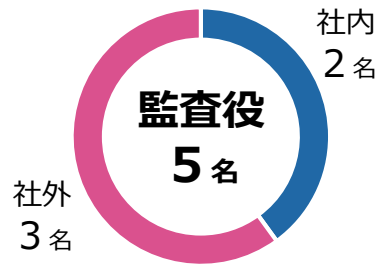


社外役員顔ぶれ

取締役の内訳










監査役の内訳



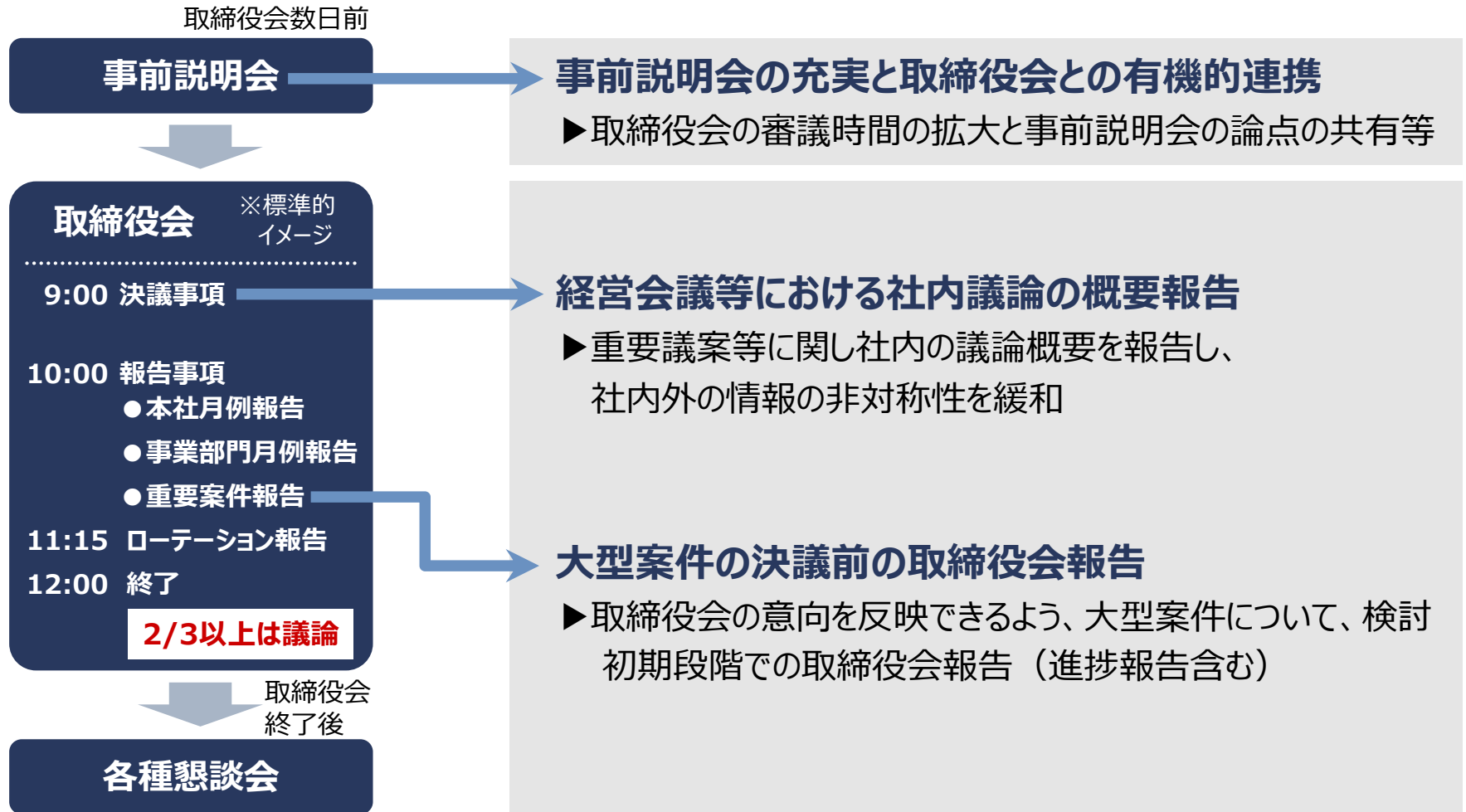
**元経営者、学識経験者、
 官僚出身者、法曹界関係者、
 会計専門家、金融機関出身者から成る
 バランスのとれた構成**

独立・社外取締役/独立・社外監査役

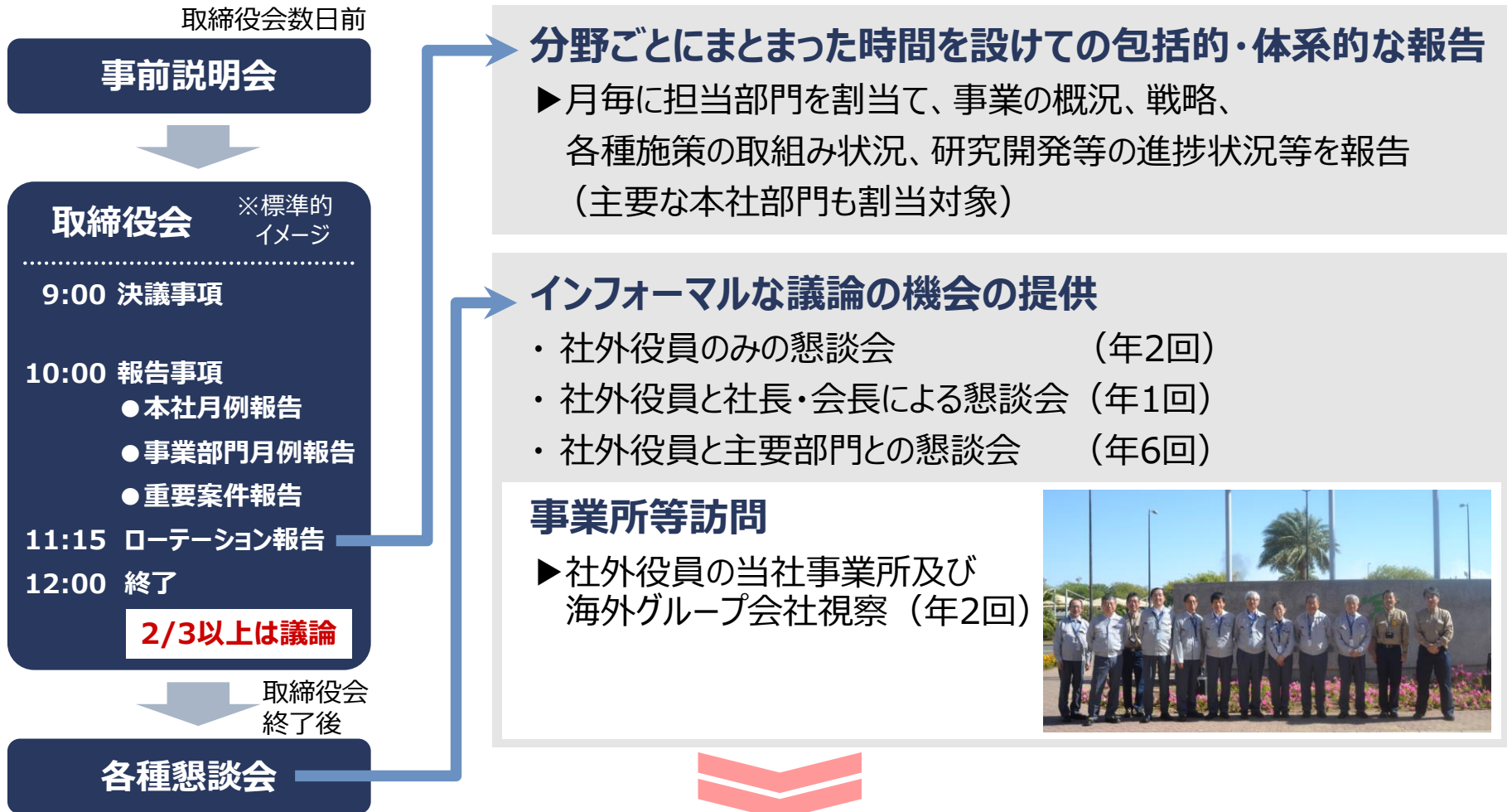
	元経営者	セールス・マーケティング	研究・技術・製造	経済全般	グローバル	人事・労務・人材開発	人文社会科学	法務・コンプライアンス	経理・税務	金融	ガバナンス
池田 弘一 氏 	○	○									
友野 宏 氏 	○		○								
伊藤 元重 氏 				○	○		○				
村木 厚子 氏 						○	○				○
麻生 光洋 氏 							○	○			
加藤 義孝 氏 					○				○		
米田 道夫 氏 	○									○	○

実質面でのコーポレートガバナンス強化の施策①

社外役員の監督機能と助言機能を最大限に活用



実質面でのコーポレートガバナンス強化の施策②

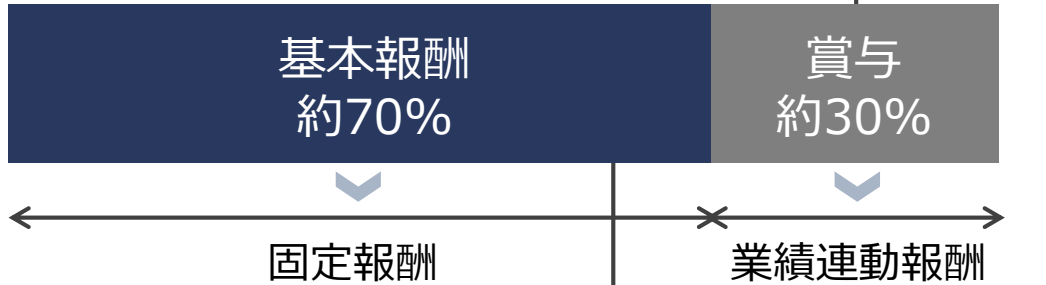


これらの施策をベースに、
中長期的な課題についても、活発な議論を実施

役員報酬の考え方

経営陣幹部、取締役に対する報酬決定方針

取締役報酬の概念図 (中期損益目標達成時の想定)



算出フォーミュラ	
連結業績指標	コア営業利益 + 金融損益
算定式	連結業績指標 × 係数※1

※1 係数は上位の役位ほど大きくなるよう設定
 ※ 連結業績指標が一定以下の場合、賞与は不支給

判断要素	
規模	総合的かつ中長期的に見て 当社のポジションが変動したと 判断しうる場合、報酬額を変動 (中長期インセンティブ)
収益力	
外部評価 FTSE、MSCIなどの ESG評価を含む	

2019年度実績



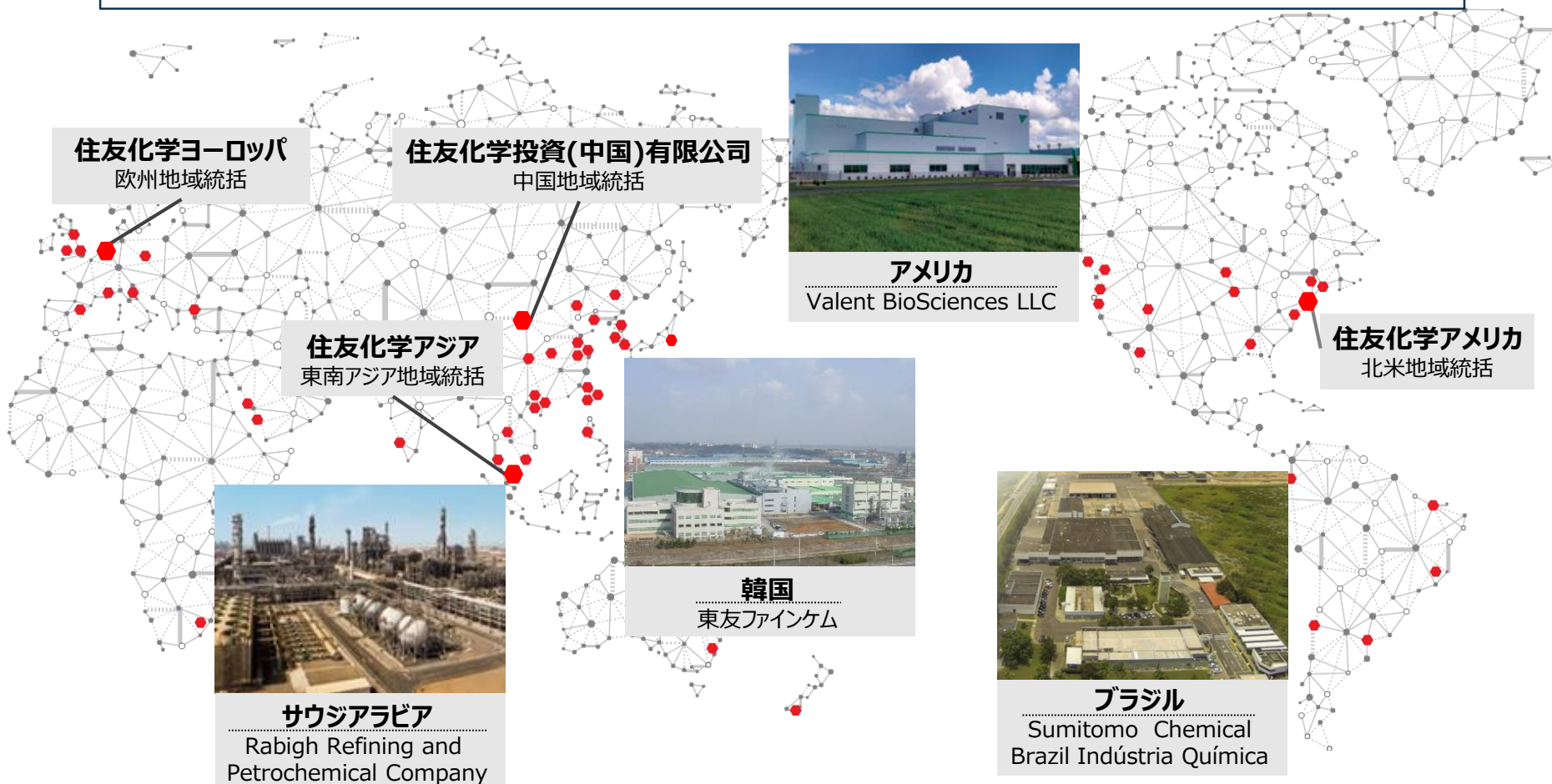
グローバルでのグループ会社管理

連結子会社数

国内：67社

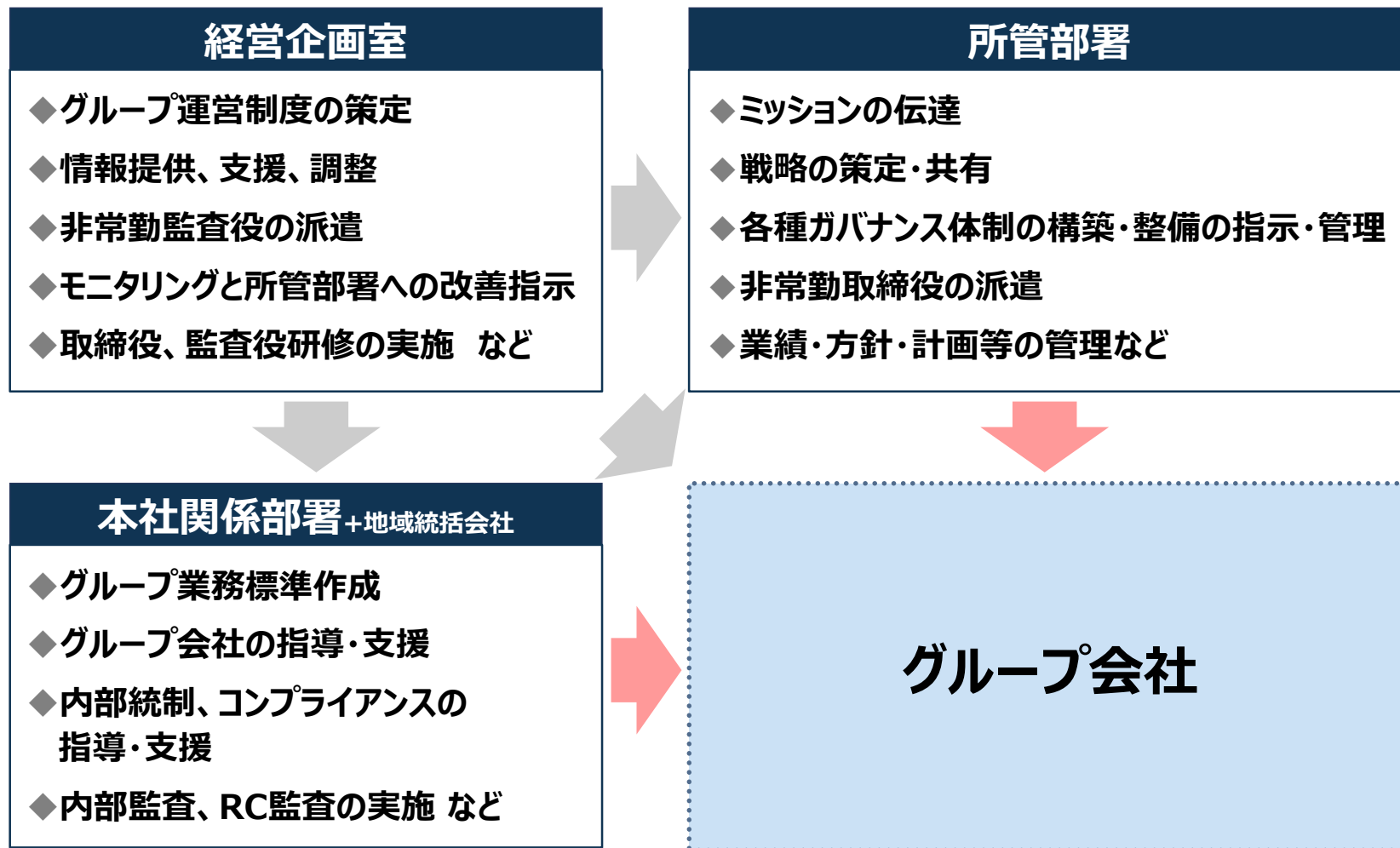
海外：151社

合計：218社



グループガバナンスの仕組み

縦串・横串を通してのグループ会社管理



上場グループ会社のコーポレートガバナンス

ビジネス面

- 相互に共有されたグループ戦略
- 重要事項に関する親会社との事前協議の実施
- 総合化学としての技術シナジー

グループ全体での
経営成果の最大化

コーポレート・ガバナンス面

- 上場子会社の自律的意思決定
- 子会社側の一般株主との利益相反リスクへの対応

十分な数の独立社外取締役選任

独立社外取締役を中心とする
役員指名・報酬の委員会設置

独立社外取締役のみの
利益相反を監督する委員会設置

3

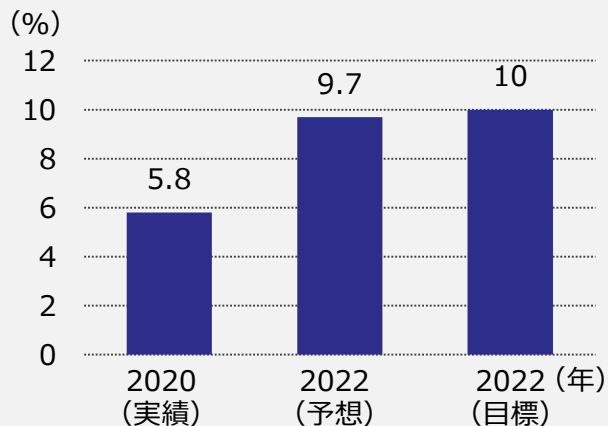
社会トピックス

S

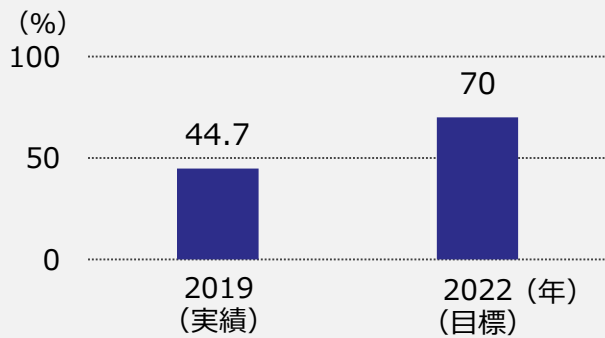
ダイバーシティ&インクルージョン

女性活躍推進施策

課長相当職以上の女性社員の割合※



男性社員の育児休業取得率※



※住友化学単体

採用

- 新卒採用における女性比率：約25%

教育

- 女性リーダー創生塾 (2014～2019年)
- ダイバーシティ・マネジメント研修 (2020年3月～)
- アンコンシャス・バイアス研修 (2020年10月～)



ダイバーシティに関する講演 (村木厚子先生)

働き方

- 社内保育所の設置 (2008年～現在 6事業所、139名利用)
- 育児休業期間：最長3年11カ月
- 配偶者の海外勤務に同行する際の休職制度
- 出産・育児等による退職者の再雇用制度 (キャリアカバー制度)

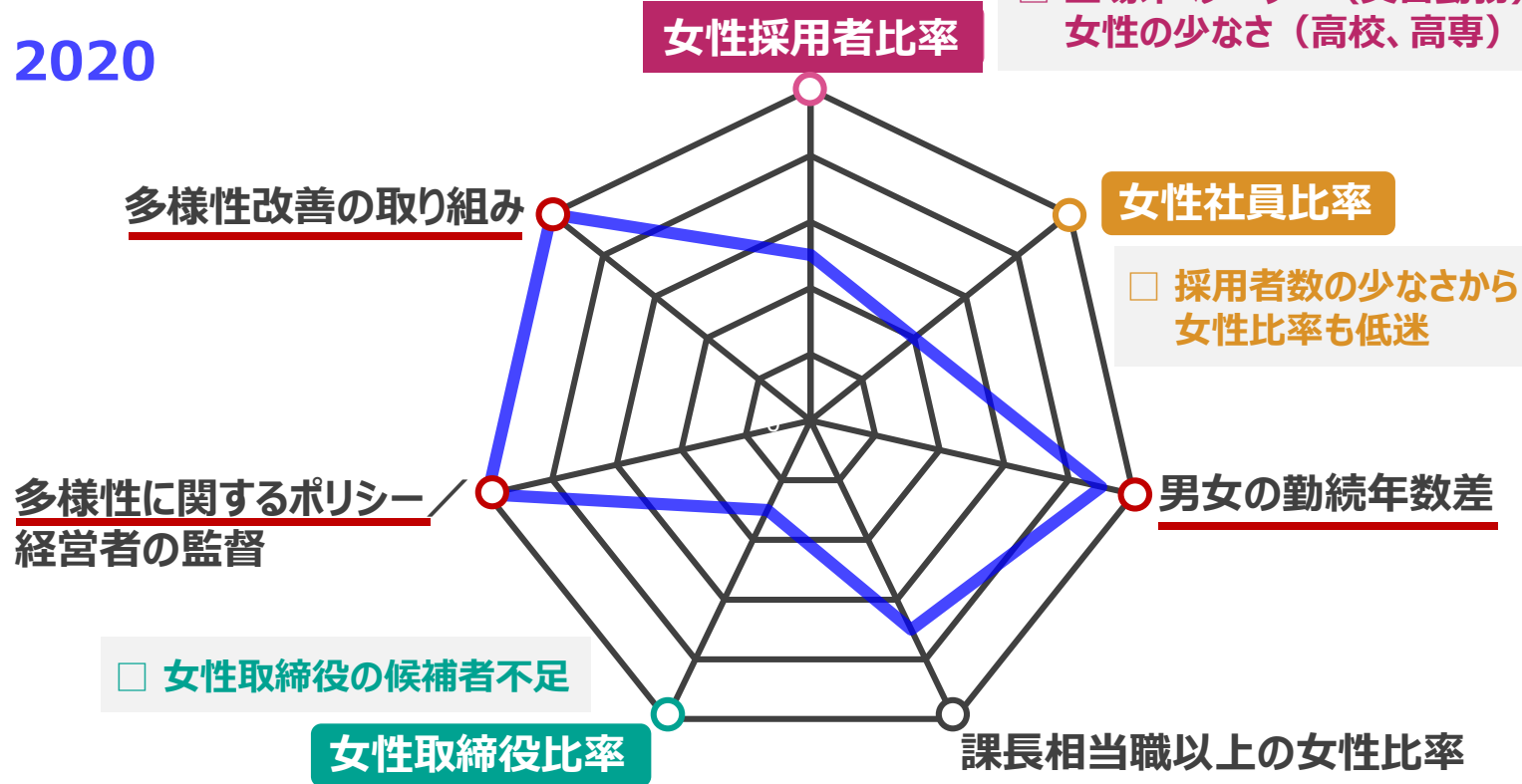


いずみキッズ (大阪工場)

女性活躍について

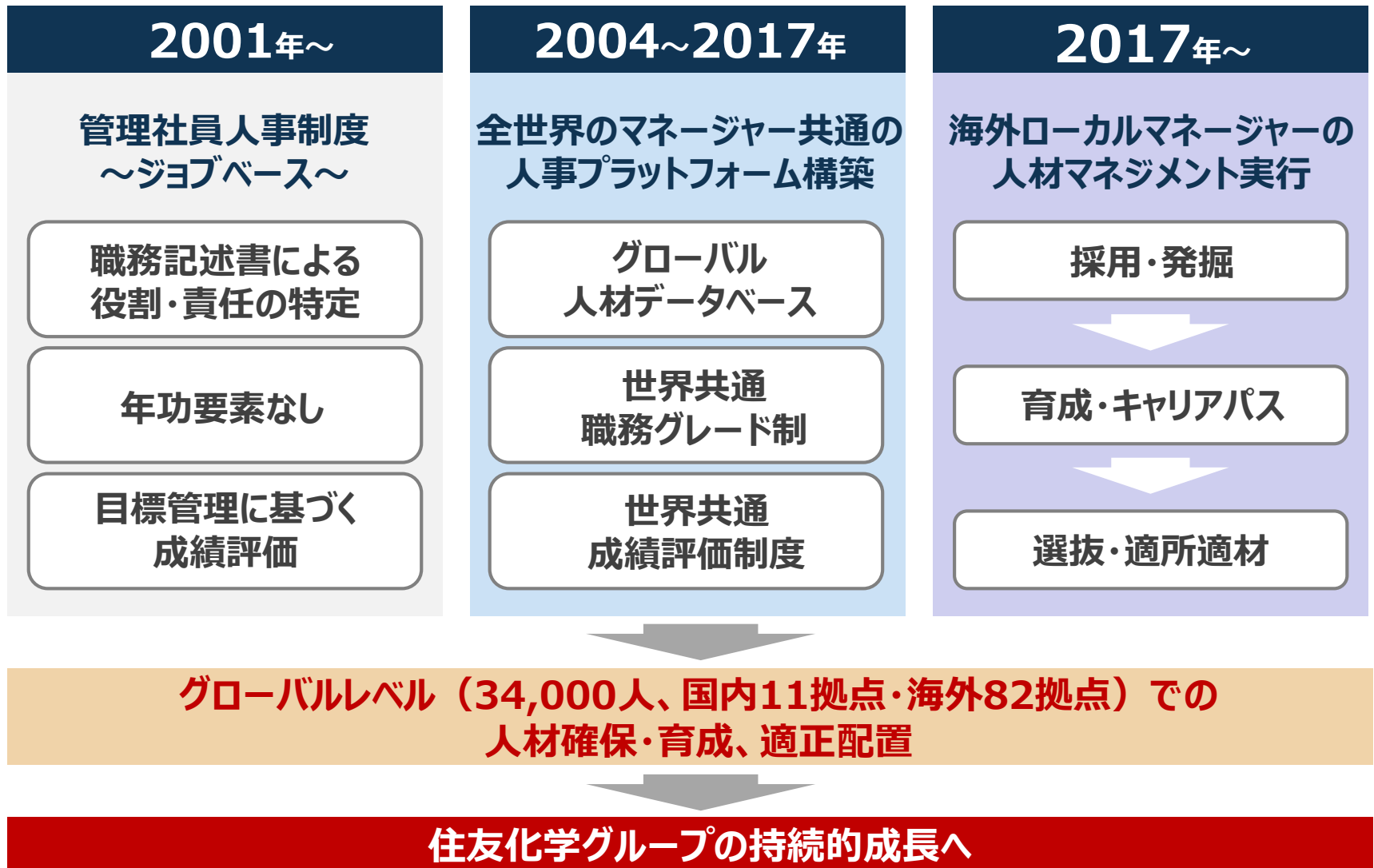
MSCIスコア 自社分析

2020



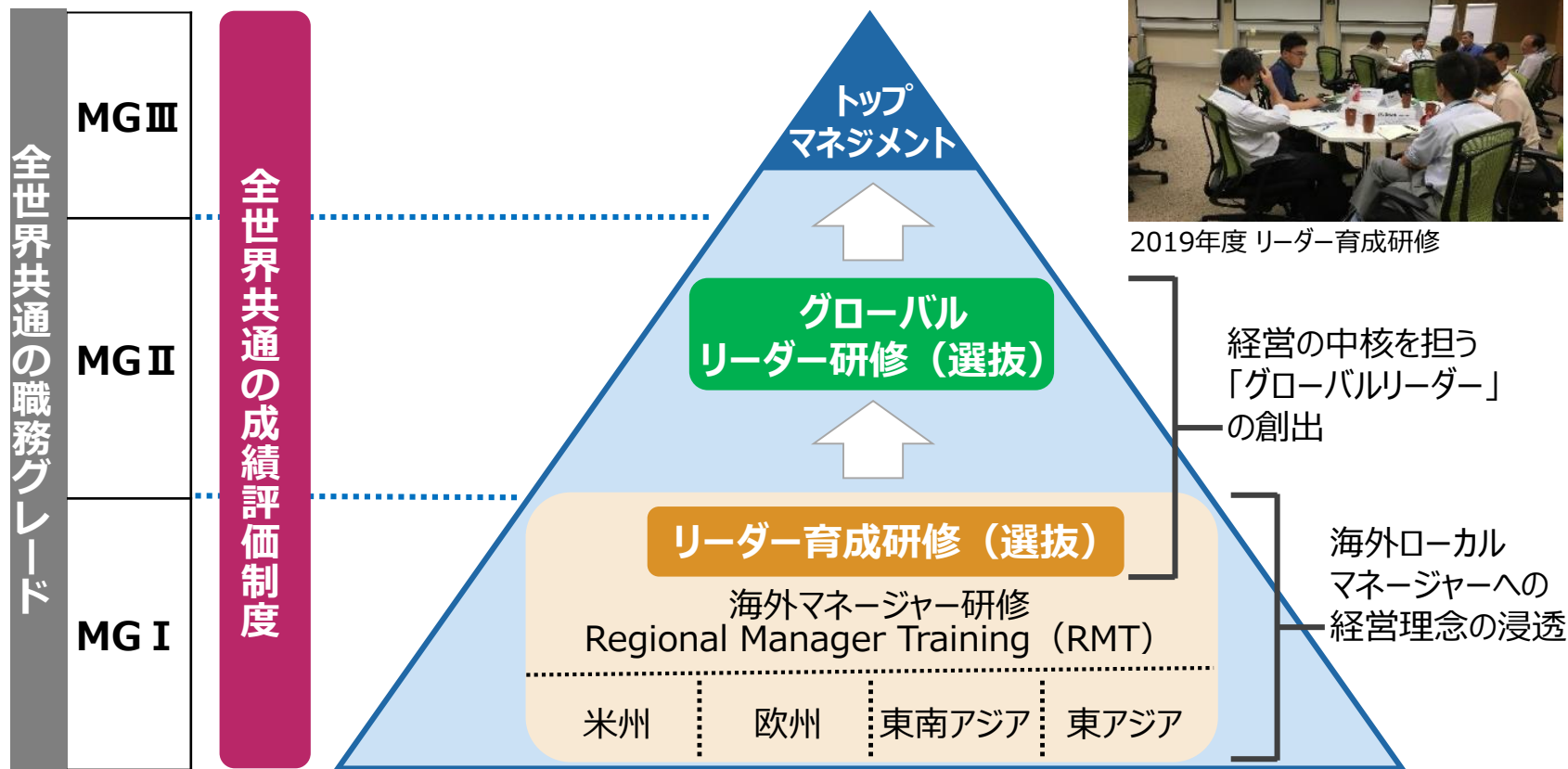
取り組み姿勢や内容、勤続年数は高評価であり、女性が活躍できる環境は整備済み。
更なる改善に向けて取り組んでいく。

当社グローバル人事制度の歩み



当社グローバル人事制度の歩み

経営理念の浸透と次世代リーダーの育成



- 海外マネージャー研修にて経営理念の浸透を徹底
- グローバルリーダー研修およびリーダー育成研修にて次世代リーダーの育成を図る

バリューチェーンを通じた人権尊重

方針と 体制整備

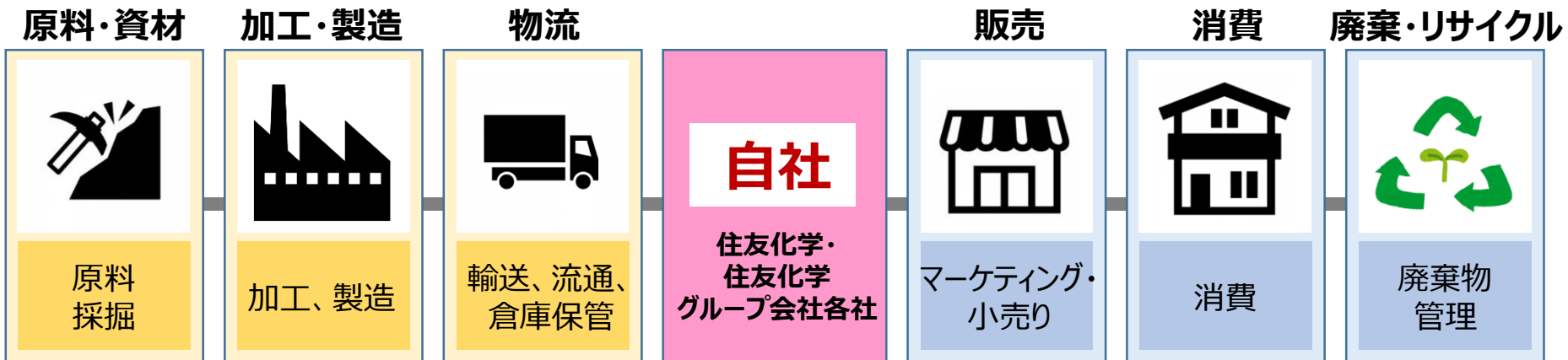
- 人権尊重に関する基本方針の制定
- 人権尊重推進委員会の設置

具体的な 取り組み

- 人権デュー・ディリジェンスの実施
- 人権を尊重したサステナブル調達への推進
- 人権イニシアティブへの参画



バリューチェーン全体を通じた人権尊重責任を果たす



注意事項

本資料に掲載されている住友化学の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、住友化学の事業領域をとりまく経済情勢、市場における住友化学の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において住友化学が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。